

ACT 通信

栃木県立足利中央特別支援学校

「あかるく つよく たすけあう子」の育成を目指し、地域とともにある学校として今年度コミュニティ・スクールがスタートしました

【目指す生徒像】

- 〔あかるく〕 前向きな気持ちで主体的に取り組む児童生徒
- 〔つよく〕 心身ともにたくましくチャレンジする児童生徒
- 〔たすけあう〕 周囲の人と心豊かに関わり、助け合うことのできる児童生徒

安心・安全

- 日常的に安心・安全な教育環境を多方面から整備する
- 児童生徒の実態に応じた効果的な防災教育・訓練を実施する

家庭や地域との連携

- 家庭や地域との連携・交流・協働によって「地域に開かれた学校づくり」を実現する

コミュニティ・スクールでは

「安心・安全」と「家庭や地域との連携」に力を入れます

本年度重点目標

教育の充実

- 学校内外において ICT 機器を効果的に活用し、主体的な学びや個別最適な学びを推進する

教職員の専門性向上

- 児童生徒一人一人の「わかる＝楽しい」授業を実現するための指導力、授業実践力の向上を図る

「令和7(2025)年度学校安全総合支援事業」について

今年度本校は栃木県の学校安全総合支援事業の拠点校として、災害安全に重点を置いた取組を行っています。(以下、事業計画より抜粋)

① 事業目標

足利市をモデル地域として、障害のある児童生徒に対して、様々な自然災害に対する教育プログラムの開発・活用を通して、自ら命を守り抜くための「主体的に行動する態度」の育成に取り組む。また、その成果等について広く周知することによって、県内の各学校における学校安全推進体制の構築を目指す。

② 事業概要

今年度、足利市をモデル地域として、地震や大雨による災害を中心に、それに対する教育プログラムの開発・活用を通して、障害のある児童生徒が、災害に関する確かな知識を習得し、状況に応じた適切な判断によって、主体的に行動する態度を育成する取組について普及させ、その成果等を広く周知する。

③ 主な事業の成果指標

- 障害のある児童生徒が、地震や大雨によって起こる災害（被害）や身に迫る危険を具体的にイメージでき、自分の身を守る方法について考えることができる児童生徒の割合が増える
- 災害時の基本的な対応を理解し、障害のある児童生徒の避難について、個々の実態や災害の状況に応じて適切に判断し、行動できる教員の割合が増える

本校では、防災安全学習や職員研修、避難訓練等に取り組み、目標の達成を目指しています。また地域とともにある特別支援学校として、学校運営協議会委員の皆様にも御協力・御助言をいただき、体制や意識の改善を図りたいと考えています。



第2回学校運営協議会

8月5日（火）本校を会場に第2回学校運営協議会が開催されました。今回は委員の皆様へ「学校安全に関する職員研修」を御参観いただき、本校の安心安全を目指した取組について体感していただく機会となりました。栃木県教育委員会事務局生涯学習課 中里様、安足教育事務所 塩原様にも御出席いただきました。

【次第】

- 1 開会
- 2 日程及び研修概要説明
- 3 防災講話
 - ① 「土砂災害の危険と対応について」
宇都宮地方気象台 防災気象官
 - ② 「土砂災害から身を守る」
足利市危機管理課 地域防災担当
- 4 職員研修「土砂災害引渡しシミュレーション」
- 5 振り返り
- 6 次回案内
- 7 閉会



防災講話

宇都宮地方気象台と足利市危機管理課のお二人から講話をいただきました。

講話の中で、災害は地形や地質等の素因に加え、引き金となる大雨や暴風、大雪、大地震等の誘因により発生するとありました。その土地の素因を知っているのと知らないのでは、防災対応に大きな差が生じ、時には生死を分けることもあります。素因はハザードマップ等で事前に知ることができ、それにより災害時に安全かつ迅速な避難行動につながります。また、気象情報や市町村が発令する「避難に関する情報」に注意し、タイミングを逃すことなく避難することが重要であるとお教えいただきました。気象庁が提供する大雨による災害の危険度分布「キキクル」の活用方法についても触れていただき、災害に対する意識の向上につながりました。



←足利市洪水・土砂災害ハザードマップ

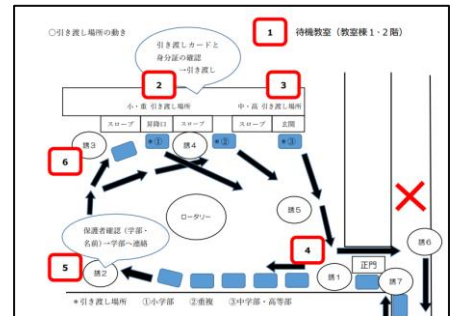
土砂災害引渡しシミュレーション

職員研修として、土砂災害を想定した保護者への引渡しシミュレーションを行いました。引渡し時の課題を明らかにし、防災組織やマニュアル等の整備を行うことを目標として取り組みました。

想定としては、火曜日の13:00、前日より豪雨がが続いている状況を設定しました。急激に雨量が増え、下校の対応を検討している最中に、土砂災害警戒情報（警戒レベル4相当）が発令。児童生徒は校舎北側の裏山から一番離れた校舎に避難し、一斉メール配信により連絡を受けた保護者の迎えを待ちます。職員は、児童生徒役、教員役、保護者役に分かれ、避難からの引渡しまでのそれぞれの動きを確認しました。

迎えが来た順番に、トランシーバーで待機場所の該当児童生徒を呼び、教員が保護者に引き渡すという手順で訓練を行いました。トランシーバーでのやり取りの不具合や迎えの車の混雑状況など様々な課題が浮き彫りになりました。

また、学校運営協議会委員の方々にも、右の図の①～⑥のポイントを巡回し、職員の動きや周囲の環境等について御覧いただきました。教職員とは違った視点で、様々な角度から課題を御指摘いただき、そうした御意見を今後の取組や体制の改善につなげていきたいと感じております。当日は猛暑の中、御協力いただきまして心から感謝申し上げます。



引き渡しシミュレーションに関する御意見 ～建設的な御意見をありがとうございました～

学校安全総合支援事業実践委員より

【引渡し場所・誘導】●校舎内の待機する場所ではできるだけ安全な場所を選んだほうがよい。より正門付近がよいと思う。●正門より入構後、子どもの名前をトランシーバーで伝えていたが、トランシーバーの耐水性が高くないと難しいと感じた。
【全体】●大雨時は、外での引き渡しは危険かと思われる。弱くなるのを待つことや校舎で待機することも考える必要がある。●土砂の危険がない場所であれば、慌てる必要はない。●支援が多く必要な人を先に避難させるなど段階的に避難する必要がある。

学校運営協議会委員より

【待機場所】●教職員の役割が見えづらかった。●児童を速やかに引き渡し場所へ誘導していた。●トランシーバーの音が割れて聞こえにくい。●突発的なことで生徒も不安になっていると思うので、多めの教員配置が必要である。
【引渡し場所】●表示はもっと目立つ大きさのほうがよい。小中高がどこに行けばよいかわかる案内板があるとよい。●受付から、実際引渡しがされるまでの時間がかり過ぎている。●保護者確認の仕方等が保護者に周知されているのか。●口頭だけでなく、名札でしっかりと確認しておりよいと思った。●パニックになる子どもへの対応を検討しておいてほしい。●各学部の保護者の振分けがもう少し手前でできると混雑が防げるのではないかと。●迎えに来る保護者の車にも目印があるとよい。
【誘導】●2列に出車を待機させていくのはとても良いアイデアであり、スムーズだった。●入る車、出る車の誘導を分担していた。安全に注意して誘導していた。●実際は、雨の音で声が届きにくいと思う。●車の渋滞対策を検討する必要がある。●すれ違えないので車の誘導が難しそうだった。また、一般車両への影響も考える必要がある。●車の流れは西門から出るなど別ルートを考える。先生たちの声かけが素晴らしいが、雨のときにこの声かけが雨音で消されないか心配。
【全体】●自力で移動できる児童生徒には、自力で避難できるように訓練しておく。●ルートを検討し、児童生徒、保護者も含め、訓練するとよい。●誰が何役かわからなかった。役割名をつけるのは訓練の基本である。●職員が冷静に声を掛け合ってチームで行うことができるよう、日頃から緊急時に備えて確認しておくことが必要であると実感した。●数年前、校庭に避難する協定を足利市と結んでいるが、土砂災害が起こることも想定し、対応を考えておくとい。●多様なメンバーがそろっている北郷地区協議体で協力を依頼するとよい。●ドライブスルー方式を確立する必要があると思う。火災時などの緊急車両の入構の妨げになるであろう。そのためには、近隣施設との連携を図る、非常道路や門の設置が望ましい。●出入口を別にするために非常門の設置は必須。●全員の先生がこのシミュレーションを把握して臨んだのか。職員間に温度差があったように見受けられる。●課題を洗い出すために素晴らしい取組だと思う。自分自身も考えさせられた。●このような訓練を行うこと自体が素晴らしいと思う。想定が違ったこともあったと思うが、それも含めてシミュレーションができたことが収穫だと思う。

【おわりに】 第3回学校運営協議会は10月15日（水）を予定しております。次回は、今回の研修の振り返りを含め、地域との連携・協働について熟議を予定しています。この通信が地域や保護者の皆様のもとに届き、本校の取組について御理解を深めていただけますと幸いです。足中特は「地域とともにある学校」として、子どもたちのひとみ輝く未来のために行動します！（文責 早川）